

TECHNICAL DATA

塗装仕様	地下外壁用水和凝固型塗膜防水材
製品名	ネオモルY

第5版 作成日：2020年 6月 1日



菊水化学工業株式会社

施工仕様書

塗装仕様： 地下外壁用水和凝固型塗膜防水材

製品名： ネオモルY

用途： 地下外壁の防水 等

1. 工程表 新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (hr)	標準施工面積
下塗り	ネオモル水性下塗材 主 材：16kg 無希釈	はけ・ウールローラー エアレススプレー 等	1	3以上	約80m ² /16kg 約0.2kg/m ²
主材塗り①	ネオモルY 主 材：10kg 混和液：7kg 清 水：0~0.4L	リシガン 等	1	3以上	約14.0m ² /セット 約1.2kg/m ²
主材塗り②	ネオモルY 主 材：10kg 混和液：7kg 清 水：0~0.4L	リシガン 等	1	-	約15.5m ² /セット 約1.1kg/m ²

標準塗厚 : 1.5mm厚

単位容積質量 : 約1.5kg/L

練り混ぜ後の可使用時間 : 30分以内(20℃)

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は塗見本との比較または単位面積当たりの使用量で確認してください。

注4 下地の状況に応じて、適切な下塗材を選定して施工してください。

2. 材料荷姿

下塗材： ネオモル水性下塗材

NET： 16kg/缶

主 材： ネオモルY

主 材 NET： 10kg/袋

混和液 NET： 7kg/缶

3. 施工要領

3-1. 素地調整

- コンクリート面の突起物、レイタンス及び白華は、グラインダーがけ又はかわすき等で除去してください。
- 汚れおよび付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行ってください。
- 下地面に残留する金属（番線・釘等）は除去してください。
- 下地のひび割れ、欠損、浮きは、BR工法等で適切に処理してください。
- 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキングは除去してから施工してください。

3-2. 材料の混ぜ合わせ

下塗材

- 使用前に均一に混ぜ合わせてください。

主 材

- 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行ってください。
- 製品はミキサーでダマが残らないように十分に練り混ぜてください。
- 練り水及び希釈水は必ず清水を使用してください。
- 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 可使時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないでください。
- 練り足し、水を加えての練り戻しはしないでください。
- 既調合タイプの製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を加えないでください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。

3-3. 施工

下塗り

- 下塗りは、下地の吸い込みのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように塗り付けてください。

主材塗り

- 工法は、吹付けとし、リシンガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、模様むら、吹き継ぎむら・吹き残しの内容に注意して行ってください。
- 一度に厚みをつけず2回吹きで所定の塗り厚に仕上げてください。

成分表

下塗材：ネオモル水性下塗材

内 容	重 量 (%)
エポキシ変性アクリル樹脂エマルション	100.0
計	100.0

主 材：ネオモルY 主材

内 容	重 量 (%)
無機質結合材	32.9
骨材	65.9
添加剤	1.2
計	100.0

：ネオモルY 混和液

内 容	重 量 (%)
アクリル樹脂エマルション	89.2
水	9.3
添加剤	1.5
計	100.0

性能試験成績書

塗装仕様		地下外壁用水和凝固型塗膜防水材			
製品名		ネオモルY			
供試材料		下塗材：ネオモル水性下塗材 主材：ネオモルY			
試験項目		試験方法	規格	結果	
低温安定性		JIS A 6909 (防水形 複層塗材CE) に準拠	塊がなく、組成物の分離及び凝集がない。	合格	
軟度変化B法			-15~15	-2	
初期乾燥によるひび割れ抵抗性			ひび割れがない。	合格	
付着強さ (N/mm ²)	標準状態		0.5以上	1.51	
	浸水後		0.5以上	1.23	
温冷繰返し			試験体の表面に、ひび割れ、剥がれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がない。	合格	
透水性B法(ml)			0.5以下	0.12	
耐衝撃性			ひび割れ、剥がれ及び著しい変形がない。	合格	
引張強さ	無処理		-10℃	(N/mm ²)	9.10
			20℃	(N/mm ²)	1.45
		60℃	(N/mm ²)	1.13	
	加熱処理		(N/mm ²)	1.65	
	アルカリ処理		(N/mm ²)	1.78	
	酸処理		(N/mm ²)	0.80	
	浸水処理		(N/mm ²)	1.90	
	伸び率 (%)	無処理	-10℃	つかみ間の伸び	2
20℃			標線間の伸び	60	
60℃			つかみ間の伸び	40	
加熱処理		つかみ間の伸び	20		
アルカリ処理		標線間の伸び	65		
酸処理		標線間の伸び	30		
浸水処理		標線間の伸び	88		
浸水処理		標線間の伸び	38		
引裂強さ		(N/mm ²)	84		
ゼロスパンテンション		自社法	(mm)	2.1	

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

一般的な注意事項

《下地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分に行ない、含水率 10%以下、pH10以下で施工してください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

《環境》

- 夏期など、特に気温が高い場合や下地の吸い込みが著しい場合はドライアウトの原因となります。適当な水湿し、または下塗りを行ってください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 表面に白華が発生した場合はブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- 溶剤形の下塗を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。

《保管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 製品は、湿気に注意し、水がかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管してください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート：旧MSDS)を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 取扱い中は、粉じんがたたないように注意し、また、取扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようにしてください。